

IV-41 都市におけるオープンスペースの選好性に関する研究
—札幌市を例として—

北海道大学工学部 正員 小川博三
北海道大学工学部 正員 山村悦夫
北海道大学工学部 学生員 ○吉田宏美

(1) はじめに

オープンスペースは都市環境を構成する重要な要素であり、市民との日常的な接触も多い。特に最近、都市環境問題がクローズアップされてきており、それだけにオープンスペースに寄せる期待は大きくなっている。しかしオープンスペースの問題は山積みであり、どれ一つとっても有効な対応策がないのが現状である。

ところでオープンスペースの問題は次の3つに大別されると思う。第1は「量」の問題であり、第2は「質」の問題であり、第3は「配置」の問題である。以上3つはそれぞれに重要であるが、本研究は特に「質」の問題に的をしぼって行なったものである。

(2) 本研究のねらい

オープンスペースにシビルミニマムとして見なされるようになり、各地で公園や緑地が次々設置されている。しかし、従来の計画においてはその設置に追われ、比較的利用する市民の選好性がオープンスペースの計画に充分反映されてきたとは言いがたい。それにやれば通一的になり、せっかく設置されても市民に親しまれないような状態が生まれる結果になるこ

とばしばしはある。そこで本研究は各種の選好性調査を行ない、市民が望んでいるオープンスペースの質を採り、今後のオープンスペースの計画に1つの指針と与えることをねらいとするものである。

(3) オープンスペースの定義

本研究で扱っているオープンスペースとは次の3つの条件を原則として兼ね備えているものをいう。

- ① 非建ぺい空間であること
- ② 公共性があること
- ③ 永続性が保証されていること

ところで本研究は都心部のオープンスペースとして屋上を加えてあるが、上の条件のうち①を満足しないという意見もある。しかし都心部のオープンスペースが不足している状態を考慮し、利用的に見た場合、非建ぺい空間との類似性が高く、かつ市民にも日常的に活用される面を持っているという観点から敢えて、屋上をオープンスペースとして扱ったわけである。

(4) 都心部のオープンスペースの選好性

地域性を考慮したオープンスペースの質を探るために、比較的对照な地域である住居地域と都心部におい

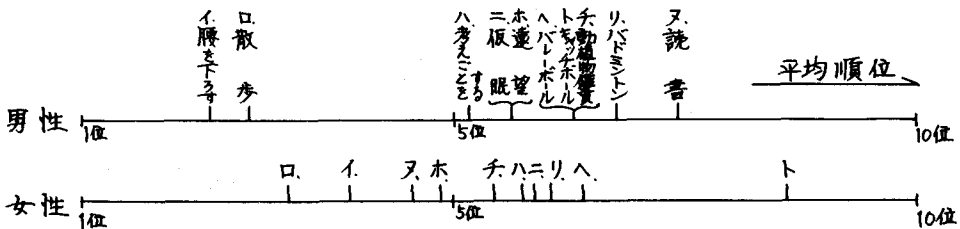


図-1 都心部のオープンスペースの利用別順位尺度図(序数法による)

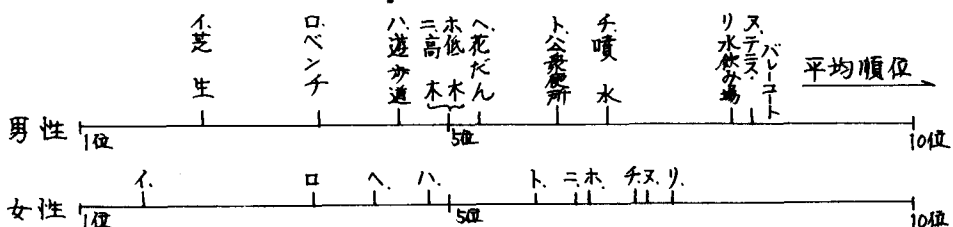


図-2 都心部のオープンスペースの施設別順位尺度図(序数法による)

て選好性調査を行なった。対象者及び対象地域は表-1の通りである。本研究では特にオープンスペースの問題が集中している都心部に着目して行なった。

図-1は都心部のオープンスペースの利用について調査した結果である。これは10個の利用方法に関して、被験者に好きなものから順位をつけてもらい、その順位を総和して被験者総数で除して平均順位を算出したものである。なおこの調査はあくまでも意識調査である。したがって被験者が望んでいる利用をまとめたもので実態調査ではないことを明記しておく。それを考慮して図-1の結果をみると、男女共に「腰を下ろす」や「散歩」といった静的な利用が望まれていることがわかる。「バドミントン」や「キャッチボール」といった動的なものは意外に低い。

図-2は都心部のオープンスペースの施設について図-1と同じ方法で調査した結果である。これによると、「芝生」「花だん」「遊歩道」といった静的なものの順位が高く図-1の利用方法と関連しているように思われる。

図-3は都心部になじみの深いオープンスペース(広いグリーンベルトは札幌市の大通公園のようなもの)を一对比較法を用いて尺度化した結果である。それによると屋上の選好性が一番低い。しかし屋上庭園の選好性が単なる屋上よりも高いことに注目してみよう。つまりより魅力的な要素をとり入れることにより、地上のオープンスペースの代替的活用を期待できるものと思う。

住居地域に対しても同様な選好性調査を行ない、その結果をまとめたのが表-1である。その結果によると、住居地域は比較的に動的な利用や施設が望まれ、逆に都心部では、静的なものが望まれていることがわかった。したがってオープンスペースの計画もその方向に添った形で進められるのが望ましい。また都心部で

は屋上の活用を提起したが、住居地域においては、供給処理施設(たとえば下水処理場、清掃工場など)の付属園地と近隣公園の代替として活用したいものである。

(5) 本研究の問題・展望

本研究の調査はサンプルなどに問題があり、必ずしも充分だとは言えない。しかしこの点を拡充しつつ、合わせて量や配置の問題に発展させていきたいと思っている。本研究はその第1歩である。

(6) おわりに

本研究を進めるにあたり、北大の五十嵐教授、山形助教授より適切な御助言を賜わった。記して謝意を表する。

(参考文献) 山村、牛尾「観光要因としての風景に関する交通計画的研究」第22回土木学会年次学術講演会概要 1967

表-1 オープンスペースの比較

	住居地域	都心部
アンケート対象	主婦	20~50代の年齢層
	第1・2種住居専用地域	商業地域(雑居地)
選好性の高い利用	1.バドミントン 2.自転車遊び 3.砂遊び 4.キャッチボール	1.散歩 2.腰を下ろす 3.遠望 4.仮眠
選好性の高い施設	1.砂場 2.遊具 3.自転車道 4.芝生	1.芝生 2.ベンチ 3.花だん 4.遊歩道
オープンスペースの役割	活動の場として	いこいの場として
活用したいオープンスペース	供給処理施設の付属園地	屋上

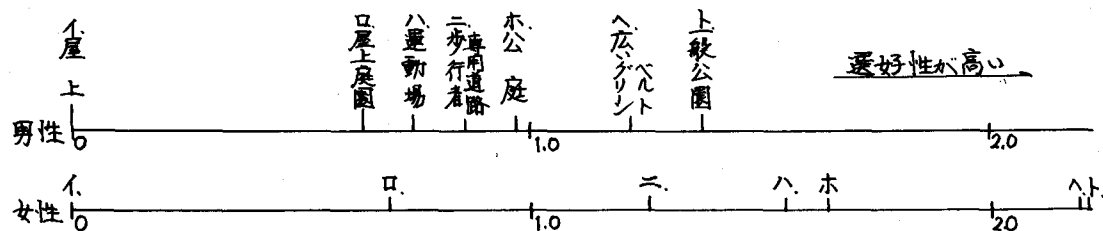


図-3 都心部のオープンスペースの選好尺度図(一对比較法による)